

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	大津市立 天神山保育園
代表者氏名（管理者）	園長 菅森 有紀子
法人名	大津市
定員（利用人数）	100名
施設・事業所所在地	滋賀県大津市本堅田六丁目3番1号
T E L	077-572-0249
F A X	077-572-0249
電子メール	otsu1414@city.otsu.lg.jp
ホームページアドレス	<a href="https://www.city.otsu.lg.jp/soshiki/015/hoikuen/1414/1468913779863.html">https://www.city.otsu.lg.jp/soshiki/015/hoikuen/1414/1468913779863.html</a>

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会
評価実施期間	令和3年11月29日

### 3 評価の概要

#### ○ 総合評価

大津市立天神山保育園は、昭和25年に開園した市内で一番歴史のある保育園で、令和2年度に創立70周年を迎えました。園舎は天神山の丘陵地にあり、自然に恵まれた環境の中にあります。園舎の裏には竹林が広がり、竹の子掘りや散歩、竹を活用してあそびに取り入れるなど、豊かな体験を積み重ねています。

「一人ひとりを大切に育てる保育」を基本理念とし、「心ゆさぶる経験を通して心や身体を豊かに育てよう！～わたしのすてき あなたのすてき～」を保育テーマとして、自然との触れ合いを大切に、愛情たっぷりに保育を進めながら、自分で考え決めて行動できる主体的な子どもを育てています。

また、地域住民に温かく見守られ、いろいろな人との関わりやつながりを大切に過ごしています。保育計画や年間指導計画の中には、豊かな自然環境を活かした内容が多く含まれています。職員は保育の専門職として、多くの保育場面で、一人ひとりの子どもの個性や違いを大切に接しています。保護者には、「園だより」、「クラスだより」、「ほけんだより」、「すくすくだより」、「ぴよんぴよん広場通信」等を通して園とともに子育てを楽しむことを伝えています。天神山保育園では、非常勤を含むおよそ40名の職員が協力し合い、コロナ禍で地域との繋がりが制限される中、保育園の社会的使命の実現と地域の子育て家庭の支援に取り組んでいます。

#### ○ 特に評価の高い点

##### ① 「食育の取り組み」を通じた心豊かな保育

調理室のある公立保育園のメリットを活かし、園の保育と連動させた栽培・収穫活動やクッキング・行事食・食物アレルギー除去食等に取り組んでいます。いのちの尊さ、栄養・食習慣など、食を教育の観点から捉える「食育」に力をいれています。また、例年「だし」にも注目して、昆布だし・鰹節だし・合わせだしの特徴や違いを、玄関先に図や現物を展示して目に留まる工夫を行い、保護者に対して、食への興味や関心を向上させる取り組みを行っています。玄関の正面には食事のサンプルケースを設置して、今日の献立について親子で話し合うきっかけをつくっています。今年度の食育テーマである「食べるのが好き！一緒に食べると楽しいな！～いっぱい遊んでおいしく食べよう～」を実現するために、園庭の畑やプランターで、いろいろな野菜を栽培、収穫して夏野菜カレーや冬野菜鍋パーティーを開き、子ども自身が関り、それを食べることの喜びを感じることで心豊かな育ちにつなげています。

##### ② 子どもの主体性の尊重と全面受容の姿勢

子どもは、年齢別保育とともに、様々な異年齢の子どもと接する機会を通して多く

の学びを得ています。玩具選び一つとっても自分で好きなものを選び、遊び方を自ら工夫する過程や、共同作業で一つの作品を作り上げる過程を通して、他者との違いに戸惑いながらもお互いを尊重できるよう保育士がさりげなく関わることで、自我の確立や他者を思いやる気持ちを育てています。職員全員が受容の姿勢、意識をもって保育していることが聞き取れました。

### ③ 園内留学や園内研究、研修会の充実による保育の質の向上

他クラスの保育を職員同士で学び合う「園内留学」を行っています。別のクラスの保育を経験することで「自分ならこんな時どうするか」など、同僚の保育を通して自らの保育経験を客観的に認識する機会としています。と同時に、子ども理解を深めながら保育実践への気づきと思いの共有を図っています。年間研修計画に基づく園内研究や外部研修にも積極的に受講することで、自らの保育を振り返り、細かいところに気づくことで、保育の質の向上や実践力を養っています。

### ④ 保護者よりの評価について

園は日々取り交わす送迎時の会話や連絡ノート、保護者との個別面談の機会を通じて保護者の意向を聴取しています。また、「園だより」、「クラスだより」、「ほけんだより」等で、保護者に子育てのあり方や楽しさを伝えています。今回の第三者評価で実施した利用者アンケートにおいても、保護者の方々のコメントに「子どもファースト思考で細やかで丁寧な保育をしていただき感謝しています」、「全面受容を基盤に子どもたちのことを愛情深く受け入れて下さり、大人に認めてもらえる経験をしている」、「担任以外の先生も子どもの様子やエピソードを話してくれ、よく見ていただいている」などの感謝のコメントがたくさんありました。これは園をあげて日々の保育の質の向上に取り組んでいる実践が、保護者の皆様に適切に評価されていることの現われです。

## ○ 改善を求められる点

### ① 年間事業計画等の保護者への周知

年度初めに保護者会の役員へは、事業計画（保育計画・指導計画等）の内容を話しているが、他の保護者へは書面で伝えるだけになっていました。コロナ禍の影響により保護者説明会が開催できていない状況ではあるが、保護者との個別面談や送迎時の時間を使って園の保育計画等の概要を伝えることで、保護者も園の保育方針を理解し安心して子どもを預けることができ、更なる相互の信頼感が生まれると思います。

## ② 利用者・保護者からの苦情受け入れ方法の見直し

意見箱は玄関口に設置されていますが、意見が投函されることはごく稀です。保護者からの苦情を受け入れることで、園としても新たな課題が見えてくると思われます。また、意見箱を経由せずとも、直に意見が伝えやすい関係作りを引き続き大切にしていくことも重要なポイントです。現在、利用者の嗜好調査は行っているものの、保育運営全般におけるアンケート調査はおこなっていないので、次年度以降アンケートの実施を行い、より利用者のニーズを捉え、保育に反映させていくことが課題です。

## 4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

○第三者評価の機会を得て、一つひとつの評価基準と評価の着眼点に対する説明を行うことで改めて保育運営、保育内容等に対する私たちが大切にしている考えは何かというものの確認と共に、こまかな実践の振り返りができました。

○客観的な視点で絶えず運営を見直すことで、良い面や改善点等に対して新たな気づき生まれ、保育の質の向上につながるということを学びました。

○「愛情深く育てること」「全面受容の姿勢で関わること」「必要な時には毅然とした態度で、子どもの納得につながるよう心を尽くして対応すること」という大切にしている保育の方針が保護者に理解されていることがわかり、職員全員のモチベーションにつながる共に、更に丁寧な子ども理解に努めながら実践に取り組んでいこうと意欲が高まりました。

○職員同士の学びの場としての園内留学を評価していただき嬉しかったです。一日ですが、担任を入れ替えて、保育や子どもの育ちを多面的に捉え互いの実践への気づきや学びとする留学は、今後も引き続き取り入れていきたいと思えます。

○利用者アンケートについては、嗜好調査のみの実施であり、近年課題としていたところがありました。今回の受審をもとに、アンケートの中身を職員間でよく吟味した上で、来年以降実施していこうと思えます。保護者さんの思いと保育園の願いと子どもの健やかな育ちが重なり合うことを目指して園を運営していきたいと思えます。

○地域、自治会を巻き込んだ防災計画への課題に関しては、今後も地域の関連機関と話をしながら計画を実行に移せるようにしていかななくてはなりません。まずは自園の防災活動への誘致を実行するなど、できることから行動していきます。